

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100231		
法人名	特定非営利活動法人 リアル・リンク京都		
事業所名	柏野の郷 グループホーム(もみじ)		
所在地	京都府京都市北区紫野中柏野町22番地		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1 「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和4年3月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援を目的に役割のある生活を送ってもらい今の状態を維持してもらおう心掛けている。</li> <li>・レクリエーションなどの行事を行い楽しみのある生活を送ってもらっている。</li> <li>・精神状態が不安定な時は傾聴して寄り添う事で安心してもらえるよう努めている。</li> <li>・自分だったらどうだろうと考え利用者様目線を意識しながら支援している。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>千本寺之内の古民家の立ち並ぶ一角に、特定非営利活動法人リアル・リンク京都を母体とする「柏野の郷グループホーム」があり、この春に設立後5周年を迎えようとしています。利用者の多くは近隣から入居され、自宅が近いのでセカンドハウスのような感覚で生活されており、ご家族と程よい距離感を保っています。以前は地域との交流も頻繁でしたが、コロナ禍により従来のように運動会や祭りなどの楽しみは激減したものの、「まずやってみよう」の思いのもとで、周到な感染対策を取り、ボランティアによる「笑いヨガ」や音楽演奏会は継続されています。コロナ関連の動向を見つつ、千本釈迦堂への散歩、近くの商店での買い物やドライブなども楽しんでおられます。また、重度化への対応として座立式入浴装置を導入し、本人や職員にとって無理のない優しい介護を心掛けるとともに、看護師である施設長と主治医との24時間の連携体制もあり、利用者も家族も安心して過ごせています。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼やタレ、会議で周知し職員間で共有を行っている。	「やってみよう ひととまちが動き出す」「つなげよう ひととまちを明るい未来へ」「たのしもう ひととまちにありがとう」を事業所方針として、職員研修の折に理念や事業所方針等の確認をしている。理念実践の一環として、対応の難しい利用希望者も選別せず受け入れることを職員間で合意している。	月1度広報紙「柏野の郷だより」を発行し、ご家族や近隣の方に配布されています。明快な事業所方針が定められていますので、広報紙の空欄に事業所方針を掲げ更なる周知を図っては如何でしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が長引き、今年度もあまり行えていないが、町内会やボランティアの方々と交流している。	町内会に入り、回覧板に月刊「柏野の郷だより」を近隣町内に回してもらっている。近くの名所千本釈迦堂には紅葉散歩に、近所の商店には花や必要品の買い物に行く。職員が代わりに購入することもある。ボランティアによる笑いヨガやピアノ・バイオリンの音楽会を開き、一緒に歌うなどして楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であまり行えていないが、地域の人々との交流の機会を設けるよう計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席して下さった方々のご意見などは、真摯に受け止め、業務に取り入れ、サービスの向上を行っている。	運営推進会議では、利用者の構成、介護度、行事計画、事故・ヒヤリ・ハット報告、行事写真などの詳しい資料を事前に参加者に配布し、関係者の意見を予め把握した上で、地域包括支援センターとのリモート会議(ZOOM)に諮っている。リモート会議で事故やヒヤリハットの事例などを詳細に検討し、助言や良い取り組みへの評価をもらっている。	検討事項を明確にして、ご家族や地域包括支援センターからも親身な意見をもらい、内容のある運営推進会議となっています。各種提言に対して「検討します」と回答した案件には次回や次々に検討結果を報告・記載すると、より会議の内容が深まると思います。ご一考ください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の福祉介護課、生活保護課との連携を常に行っている。	北区の居宅介護支援事業者連絡会主催の全事業者向け勉強会(ハラスメント研修)に行政の参加があり、当事業所も参加予定である。紫野地域包括支援センターの地域ケア会議では、ZOOMで認知症当事者に困っている事を話してもらい、それをもとに支援者が話し合う形式の認知症研修を行政と試みた。運営推進会議議事録も役所に持参していたが「わざわざ持ってこなくても良い」とのことのでFAX送付をしている。	

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を立ち上げ、事例などで話し合いの場を設けている。また、法人内で研修を行い、職員の知識、ケアの向上に取り組んでいる。	新人研修には必ず身体拘束について学ぶ機会を設け、施設長、主任2～3名の一般職員からなる身体拘束委員会を3か月ごとに実施し、結果をユニット会議で報告している。年2回全職員への研修をおこない、職員は研修レポートを提出している。日頃から言葉の拘束の検証や薬に頼らない支援を心掛けている。外に面した出入口は検温や消毒確認、前の通りが車の往来が激しいことなどにより電子ロックにしているが、各階のエレベーターは自由に行き来できる。	身体拘束委員会の議事録に全職員のサインや印鑑を貰っていますが、最後に廃棄し、その保存はされていません。保存されるようお勧めします。また、年2回の全体必須研修に参加された職員にはレポートを課し、不参加の方には資料配布のみですが、不参加の方への履修確認も望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修を行い、職員の知識の向上に取り組む、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修で権利擁護について、話し合いの場を設け、職員間で知識、情報を共有する取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行う場を必ず設け、内容について理解・納得されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席をお願いしその時のご意見や、サービス担当者会議でのご意見をサービス向上に繋げている。	年1度のアンケートをとり纏め、名前の分かる方には個別に回答し、結果を運営に生かしている。運営推進会議の事前資料を配り、家族から意見を募っている。毎月の便りで本人の様子が分かって有難いとか、ドライブや外出の希望、歩行状態低下への懸念等の意見を取り入れ、川沿いの車中ドライブ、千本釈迦堂への散歩などを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や主任会議、面談など実施し職員の意見を聞く機会を設けて、意見を反映させている。	日頃から管理者は会議以外にも何かあったら相談するように職員に声掛けをしている。行事や季節料理やおやつレクリエーション、製作品のアイデア、利用者の処遇、勤務体制の事等をユニット会議で話し合い、非接触型体温計の購入も会議で提案し実現した。	

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に規定し職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を設け、個々の知識、技術を向上させるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部から講師を招き研修を実施、また外部の学習会などへ積極的に職員の参加を促しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや生活歴からその方の”人となり”や生き方、生き様を考え、ご病気等で現状、何に不便を感じておられるか考え、面談でその方とお会いし、ニーズを考え見つけ出しサービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に、ご本人様との生活状況、関係性などをお聞きし、ご家族様が何を希望され何を心配され何に不安を持たれているのか面談でご家族様のニーズを考えサービス内容の提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15、16で得たご本人様、ご家族様のニーズから施設長と職員でご本人様に何が必要かを検討し、必要な支援を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のご意向に沿う生活ができるように支援し、職員都合の支援や介助を行わないよう職員同士で話し合いかわり方を決定している。また、職員の思いを押し付けることがないよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の思いを汲み取るよう努め、ご家族様に代弁し、ご家族様の立場や状況を考慮し、ご家族様に安心して頂けるよう努め、ご本人様とのかわりを持って頂いている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍で、外出禁止、面会禁止となる期間が多く現在のご不便をおかけする状態が多いが、外出禁止解除の際は、馴染みの店や場所へ出掛ける機会を作っている。	新型コロナの緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置の期間は除き、地域交流スペースでパーティー越しに面会をしたり、電話や手紙の支援などをして家族等との関係継続を支援している。リモート面会用にタブレットの購入を計画している。密に注意して間隔をあげ、ボランティアの笑いヨガ、ミニコンサートなどで昔の歌を歌い楽しんでいる。向かいの花屋で花を買ったり、和菓子の老舗で菓子を買ったり、訪問販売車で欲しいものを買うなどしている。出入りの美容師さんとも馴染みの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症症状に配慮し、居場所を考慮した座席の提供を行っている。ご利用者様同士が良好な関係性を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事などあらわれる場合は、時間を設け対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人様のご意向を考慮した支援に努めている。常にご本人様主体の援助を行っている。ケアカンファレンスで職員間で情報の共有を行っている。	アセスメントは入居時、入居後1か月、3か月で実施し、その後は特変がなければ6ヶ月ごとに更新して、本人の思いや心身状態を記録している。日々の気づきや発見を介護職が個別記録用紙に書き、計画作成担当者が集約をしてアセスメント用紙に記録している。日頃からしたいことや不便なことがあるか本人に聴き、要求の少ない方には職員が積極的に選択肢を示して答えを引き出すようにしている。外に出たそうな方には様子を見て外気浴に誘うなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カルテやケース記録、申し送りなどで、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回、ケアカンファレンスで、ご利用者様の現状を話し合い、施設サービス計画書に反映している。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや個々の気付き、ご家族様から頂いた情報や主治医の意見などケアカンファレンスで話し合い、課題の抽出や支援の行い方など決定し、施設サービス計画書に反映している。	以前は家族同席でサービス担当者会議を開催し、介護計画を作成していたが、コロナ禍のため家族には電話などで意見を聞き介護計画を作成している。各職員は日々の記録用紙の記載内容に担当としての観察事項を加筆し、手書きの詳細なモニタリングを毎月作成している。個々のモニタリングや再アセスメントをもとに計画作成担当者は通常は6ヶ月ごとに介護計画を更新し、変化があれば随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や気付き、支援、介助内容などケース記録に記入している。また、申し送りや管理日誌にも必要事項を記入し、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険制度に準じ、制度内で可能なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で行えていないが、地域交流の場へ出かけたり、地域での取り組みに参加していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医をご本人様とご家族に決めて頂いている。入居後は、2回/月、訪問診療を受けて頂き、主治医の意見や、ご本人様の状態、処置内容など、ご家族様に報告している。	大部分の方は当事業所の協力医を主治医とするが、以前からの主治医の訪問診療を受けておられる方もある。事業所管理者が看護師であり、医療との連携を担い、協力医とともに24時間体制でサポートしている。希望者は歯科訪問診療、歯科衛生士の口腔衛生指導を受けている。他科への受診に同行した家族からは報告をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の居られる医療機関と24時間、電話対応可能な関係を築いていおり、何かあれば、医療機関からの指示を受け対応している。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、既往歴や生活歴などの情報、介護サマリを提供している。また、入院先の担当者の方に都度、ご本人様の状態をお聞きしている。退院時は、現状の状態をお聞きし、看護サマリの提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に話し合いの場を設け、当施設の方針を説明しご本人様、ご家族様から同意を得ている。	今まで看取りはなかったため、指針等は整備していない。今後の検討課題として看取りも考えている。	看取りに関しては現在検討中という事でしたが、看取りの有無に拘わらず重度化は想定される事ですので「重度化指針」の整備が望まれます。ご一考ください。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応手順書を作成周知し、回復体位の取り方など図解を用いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年、消防署協力の下、避難訓練を行い、不備がないよう、消防署から指導を受けている。	コロナ禍により消防署の指導は無く、各フロアで火災避難訓練を実施した。職員に支えられながら階段を降りる訓練の様子を撮影している。消防署への模擬通報訓練も実施したが、夜間訓練、職員の参集訓練などはおこなっていない。備蓄は豆腐、かに玉、すき焼きなど8種の防災ゼリー等3日分や衛生用品等があり、地域の避難所としての役割も果たしたいと考えている。	感染症のBCP(事業継続計画)は作成しましたが、災害の方は作成途中です。ひと先ず完成させて実践しながら手直しを加えていかれては如何でしょう。また、夜間想定避難訓練の実施も急務と思われる。ご検討下さい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中から、不適切と思われる言動やケアについては、ユニット会議で、声の掛け方、ケアの見直しを行っている。また、研修に参加する機会を設け、個々の知識・技術の向上に取り組んでいる。	4月に「パーソンセンタードケア」の研修で、接遇面も兼ねて学んでいる。参加できなかった職員は資料をフロア内で回覧し、確認のサイン又は押印をしている。入室時のノック、自尊心に配慮した声かけなど、利用者が嫌な思いをしない様にケアカンファレンスで不適切事例を見直している。食事エプロンに関してもタオルでカバーしていたが着衣の汚れと、羞恥心との兼ね合いに配慮して良案を検討中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を聞き出せるよう日々支援している。自己選択、自己決定して頂くよう、施設サービス計画書に項目を取り入れている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のご意向に沿う生活が出来るよう支援している。常にご本人様主体で支援するよう職員に指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/2か月、訪問理美容をお願いし、希望者にカラー、カット、パーマなど行う機会を設けている。更衣や整容など、ご自身で出来る事はご自身で行って頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けをご一緒に行っている。その方の好みの形状や、食器の配置で提供している。また、ご利用者様参加型の食事レクリエーションを2回/月行っている。	ご飯はユニットで炊き、副食とみそ汁は配食弁当を取っているが、自由メニューの日に利用者の希望を容れ、鍋ものやちらしずし等を一緒に作り楽しんでいる。朝食にパンを希望される方にはパン食で対応し、事業所メニュー以外を希望される方にはピザをとったり、家族の差し入れなどもある。おやつにホットケーキやプリンを作りトッピングを楽しんでいる。飲み物はスポーツドリンクと麦茶があり、有料ではあるがコーヒー紅茶、ココア、ジュースも選べるようにしている。できる利用者はお膳拭きなどをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の少ない方は、主治医に相談し補食の提供を行っている。水分摂取は随時促し、1,500ml/日の摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日、口腔ケアを行って頂いている。出来ることはご自身で行って頂いている。1回/週、訪問歯科の機会を設け、希望者に受けて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を用い、ケアカンファレンスで排泄の失敗を減らせるよう検討し、検討した内容を実施し、毎月、見直しを行っている。	トイレでの排泄を心掛け、おむつ常用の方にもトイレでの排泄を同時に支援し、おむつや紙パンツの汚染を極力減らす様にしている。入居時寝たきりに近く、常時おむつをされていた方が、こまめにトイレ誘導することで日中間の失禁がなくなり、夜間のみのおムツ装着となり、排泄状態のみならず心身状況も上向き、歩けるようになった例がある。	



京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1回/日、体操に参加して頂く機会を設けている。入浴時は、リラックスして浴槽に浸かって頂き腸の動きを促進している。なかなか排便出来ないご様子の時は、トイレにてお腹を`の`の字にさすらせて頂き自然排便を促している。また、主治医指示の下、便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂く為、声掛けの工夫を行っている。時間に関しては、ご本人様のご希望に沿うよう可能な限り対応している。	週2~3回は入浴できるようにしている。湯は利用者ごとに入れ替え日にちや時間もなるべく希望に添うようにしている。入浴剤は検討中である。寄付による柚子湯もあるが計画的に季節湯を実施してはいない。同性介助でも恥ずかしいと拒否される方や、日常的に軽い拒否の方があり、日時や気分を変えて誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度、照明を調節し良眠出来るよう配慮している。眠たいご様子が見られる時は、ベッド臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表から薬の効能を理解するよう努め、職員間で情報を共有している。ご利用者様の状態を主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の状態に合わせ、家事作業を手伝って頂いている。また、お好みの番組が放送される場合は、事前にお伝えしご希望に沿うよう視聴して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、なかなか外出出来ないが、外出可能な時は、近くの公園や寺院などへ外出の機会を設けている。	コロナ禍により外出機会は激減したが、まん延防止等重点措置などのない時は出来るだけ屋外に出るようにしている。目の前の花屋や昔からの個人商店、近くの古刹千本釈迦堂に散歩がてら行ったりしている。川添いの車中ドライブなどへも利用者と相談して行っている。事業所近辺からの入居者が多く、馴染みの通りを散歩するのも楽しみである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてお金はお預かりしている。認知症症状が進まれ金銭管理をご自身で行うのは難しい方が多く、買い物はご一緒に欲しいものを選んで頂き支払いは職員が行っている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(もみじ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙をご希望されたら、ご希望に沿うよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、整理整頓、清掃消毒は行っている。ご利用者様が不快、混乱されるような物は置いている。季節に応じた飾り付けは、制作レクリエーションでご利用者様にお手伝いして頂き飾り付けを行っている。	広いリビングは西側の大きな窓からの陽差しが明るい。中央には吊るタイプの大型テレビがあり、カウンターキッチンの横のソファは、テーブルを離れて寛ぎたい人の居場所となっている。食事前なので利用者はテーブルに着き食事を待っておられたが、一様に表情は穏やかで、来客への対応も丁寧で、室内には満ち足りた空気が漂っていた。普段はここで洗濯物を畳み、歌を歌い、めいめいが好きな事をされると聞く。壁には職員との合作の梅の貼り絵や手芸品、行事の写真などが貼り出されている。近所の小学校と交流のあった頃の写真も飾られ、温かい空間となっている。大型の次亜塩素酸空間除菌脱臭機や加湿器を備え、30分置きの換気を実施し、日に3回利用者とともに消毒や掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知症症状に配慮し、居場所を考慮した座席の提供を行っている。ご利用者様同士が良好な関係性を築けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が愛用されている家具などをご家族様が持ち込まれている。	部屋の入口に本人の名前入りプレートが貼られ自室を分かり易くしている。室内にはベッド、エアコン、防災カーテン、換気扇などが予め配置され、掃除は職員と利用者とでおこなっている。寝具、洋服ダンス、写真、DVD等、本人にとって必要なものを持ち込み、家族と相談の上本人が落ち着ける配置にしている。住宅街の中に位置するが、道路を隔てていたり、適度な空間が設けられているなどにより隣家と密接しておらず、各部屋は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室、リビング、キッチン、トイレ、脱衣室など、使用中でない場合は、好きなように歩いて頂けるよう、動線には、物を置かないなど安全に配慮している。		